

多摩川の魅力を育てる！

市域約30キロメートルが接している多摩川は、川崎市の顔としてのシンボリック的存在であり、まちの歴史を形作ってきた「母なる川」です。高度成長期に汚れていた川も、今では多い年には100万匹以上の鮎が遡上するまでに再生し、都市の中において貴重な自然が残る水辺空間となっています。市民の活動も活発で、NPO法人多摩川エコミュージアムや水辺の楽校をはじめ、様々な団体が多摩川を舞台に活動を展開しています。

市では平成17年度から「多摩川施策推進担当」を設け、これらの豊かな歴史・文化的資源や水と緑の環境資源を活かし、より多くの市民が憩い、遊び、学ぶ環境の創出をめざし、次のような取組を進めています。

(1) 多摩川にかかる全体計画の策定

多摩川の持つ魅力を活かした総合的な施策展開をめざす全体計画として、市民協働で仮称「川崎市多摩川プラン」を策定します。

《計画策定に向けた主な取組》

- ◆周辺企業や利用団体向けアンケートの実施
- ◆多摩川講演会・サロンの実施
- ◆市民・学職者等を交えた策定委員会の設置

(2) 多摩川エコミュージアムプランの推進

多摩川を中心とする地域の自然・歴史・文化を再確認し、これらの資源を守り、育み、継承しようとする活動を、「二ヶ領せせらぎ館」を拠点に推進しています。なお、施設の管理運営および事業の実施は、NPO法人に委託しています。

《主な取組》

- ◆多摩川流域の自然や歴史を紹介する展示事業
- ◆環境学習や歴史などのプロジェクトチームを核としたプラン推進事業
- ◆水辺の楽校（※）を中心とした子どもたちが川に親しむ自然体験活動
- ◆市民健康の森の活動等と連携した市民活動支援事業
- ◆広報誌の発行やホームページの運営等の広報事業

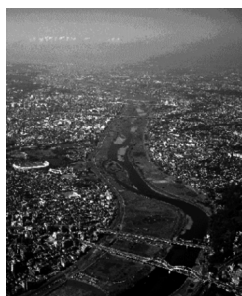


二ヶ領せせらぎ館

(3) 多摩川緑地の維持管理と利用環境の向上

市民スポーツやレクリエーションの場所として安全・快適に利用していただけるよう、サイクリングコース、ハーフマラソンコース等も含め、河川管理者である国や関係機関と調整しながら、維持管理を行っています。

さらに今後は、水辺の楽校など市民活動支援や生物多様性の観点から、占用区域内だけでなく水辺や水面を含めて多摩川緑地として、一体的な管理と利用環境の向上を進めていきます。



みんなが集う魅力ある多摩川へ

※水辺の楽校とは

国が進めるプロジェクトで、子どもたちが川に親しむ自然体験活動を、活動の主体となる市民と、地域の自治体（市）、河川管理者（国）の三者で推進しています。2005年度現在は「かわさき水辺の楽校」（多摩区）、「とどろき水辺の楽校」（中原区）の2箇所で開催しており、大師地区の水防センター建設にあわせて3校目の設立準備を進めています。